

地域を知ろう(41)

民話・伝説 No.21 和田の帝釈天

和田の帝釈天

和田の帝釈天は、和田三丁目十の六にあり、和田商店街通りに面しています。江戸時代から明治中期ごろまで、戸東の府内から堀之内のお祖師様詣での道で、参詣の人々で賑わったと、正式には日蓮宗帝釈天教会と言われている。

ご本尊は江戸時代後期に作られたといわれている。帝釈天と、もう一体鬼子母神の二体です。残念ながら、この作者は不明です。

お堂はその初めに、道の反対側にあり、広さも二間四方のこじんまりとした建物だった。いまは、明治のころ、土の明人が五、十坪の地を寄進した。のこる派な二階建ての立派なお堂が、出てきたのだ。

この建物は昭和二十年五月の空襲で、惜しくも焼けてしまいました。ご尊像は防空壕に移され、難を避けた。うです。その跡へ、飯堂が再建された。昭和四十五年、出来上がりました。地元町会、商店会などの支援があった。たからだそうです。



今でもお釈迦様の生まれた四月八日の花まつりには、花御堂があまりに、境内に安置され、金の色に安善の善男善女像が多数の善男善女像が

甘酒をかける姿が見られます。この他、節分や十月のお会式などにも子供たちが押しかけるといいます。親しめるなど、地域の人が大変好きです。江戸時代から、商店や農民にも厚い信仰があった。こ

帝釈天は仏教上、天帝とか富羅陀羅千眼などともいわれ、重要な地位を占めている。武勇神インドラが、仏教に取り入れられてからの名で、古いインドラのアーリアン族の神で、烈しい雷雨をもたらす荒々しい神だったのです。鬼子母神は、愛子母、功德天、歡喜母などの別名があります。子育て、安産の守護神として信仰され、大抵は子を抱き多産のシンボルといわれています。クワの実を持って、共仏の守護神と崇められていきます。